

「高次脳機能障害に遭遇して」

高次脳機能障害は西洋医学から置き去りにされた障害です
—7年間経った今、東洋医学を学び病める人を救う仕事をめざします—

「私は、平成16年3月17日仕事からの帰宅途中に交通事故に遭い病院へ運ばれました。診断の結果、傷病名は「びまん性軸索損傷」主たる検査所見は「左急性硬膜下血腫」「冠状縫合、矢状縫合の離別」と診断されました。

意識障害は重度で7日間もICUに入っていました。3月24日意識が戻り一般病棟に移されましたが、自分が目覚めた時にはっきり記憶に残っているのは「今日は何日?」と聞き「4月2日だよ」と言われた時でした。

動ける様になっても、四肢体感機能障害と高次脳機能障害が認められ、労災保険の適用が決まると急に転院を促されました。転院先のA病院ではリハビリを中心とし、平日はPT・OT各1日1回、計2～3時間、83日間入院し車椅子生活から何とか歩ける生活までにはなりました。

その後転院したS総合リハビリ病院ではPT・OT・STのリハビリをしたものの、1日1時間以下の希薄なりハビリで現状維持に留める程度に終わりました。高次脳機能障害についての専門的なりハビリはなく、頸・肩の痛みをはじめいろいろと体調の以上を訴えても「レントゲンには特に異常はない」とこのことで満足な治療はしてもらえませんでした。」(高橋さんの報告より抜粋)

高橋さんは、苦痛や不安をかかえながらも通院に切り替え、鍼灸治療も受診し、体調不良を抱えながらもアルバイトとして仕事ができるようになりました。

高橋さんは自分の体験を通して、現代医学の問題点と東洋医療の効果を実感し、鍼灸学校へ入学をしたのです。

私たちも高橋さんの体験から、高次脳機能障害の病状や病院医療の実際について、また、鍼灸治療や按摩マッサージ指圧治療の効果について学びなおしたいと思います。鍼灸学校で学ぶ決意をした高橋さんの報告をぜひ聞いてください。